

平成 28 年度 「子育て外国人の日本語習得モデル事業」 報告書

○事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

○実施結果

A 特定非営利活動法人にわたりの会（小牧市）・・・・・・P 3

B 特定非営利活動法人希望の光（豊田市）・・・・・・P 6

C 特定非営利活動法人みらい（知立市）・・・・・・P 11

D 特定非営利活動法人フロンティアとよはし（豊橋市）・・・・P 14

E 特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）・・・・・・P 17

〈添付〉各者作成リーフレット

愛知県

事業概要

1 目的

外国人保護者等に対して、外国人の子どもの乳幼児期における言語習得に必要な事項を周知させるとともに、子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけを提供することを目的とした「子育て外国人の日本語習得モデル事業」を以下の5つの団体に委託して実施した。

【委託先】

特定非営利活動法人にわたりの会（小牧市）
特定非営利活動法人希望の光（豊田市）
特定非営利活動法人みらい（知立市）
特定非営利活動法人フロンティアとよはし（豊橋市）
特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）

2 業務内容

- (1) 外国人保護者等に対して「子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力」を向上させるきっかけを提供するための日本語教室等の開催（次頁「1 子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育てる日本語教室を開催する上でのポイント」参照）。
- (2) 外国人保護者等に対して、次項「2 外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」を啓発するための育児教室・育児相談等イベントの開催。
 - ア 当該イベントでは、親子でできる遊びや料理教室、ベビーヨガを取り入れるなど外国人保護者等が参加しやすいような取組も実施。
 - イ 「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」を効果的に伝達するためのちらし又はリーフレットなどの資料を作成・配布。

1 子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育てる日本語教室を開催する上でのポイント

- ① Can-Do ステートメント（何ができるかのリスト）等、「この日本語を身につけることで何ができるか」という視点を取り入れましょう
- ② 「言葉」だけでなく「行動・体験型の活動」を取り入れましょう
- ③ 子どもの学校生活について知るなど、子どもの成長にともなって相談にのれるような日本語能力を保護者に身につけてもらいましょう
- ④ それぞれの家庭の事情（言語・文化など）にも配慮しましょう
- ⑤ 次のような学習目標を取り入れてみましょう
 - ・ 母子保健：乳幼児期の健康診断や予防接種についてすべきことを学んだり、母子手帳の内容を理解して、子育てに必要なことを知る
 - ・ 学 校：普段の学校の生活や年間行事について知り、また、進学システムなどの教育制度を理解して、保護者の役割を考える
 - ・ 地 域：地域のいろいろな行事に参加したり、「図書館で本を借りる」など地域の施設を活用したりして、子育ての活動範囲を広げる
 - ・ 家 庭：お弁当づくりなど、日本語のレシピで料理をつくる

2 外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント

- ① 子どもには、「親が自信を持って話せる言語」で話しかけましょう
- ② 積極的に子どもとかかわり合って、子どものことばを増やしながらか親子のきずなを深めましょう
- ③ 地域のイベントや行事に参加するなど、いろいろな体験の中で子どもに自信をつけさせましょう
- ④ 外国人コミュニティの集まりを活用するなど、子どもに母語を使う機会を与えましょう
- ⑤ 親自身が自分たちの文化やルーツに誇りを持ちましょう

家族全員がこれらのことを理解して、一緒に子育てに取り組めば、子どものことばは育ちやすくなります。そして、子どもがスムーズに日本語を習得することにつながりません。

しっかりと言語を身につけさせれば、子どもの生きる力となり、バイリンガルとしての活躍も期待できます。

2つ以上の言語が習得できる環境を大切に子どもを育てましょう。

なお、既存の子育て支援施設等と連携すると、参加者を集めやすく、効果的になります。

実施結果

A 特定非営利活動法人にわたりの会（小牧市）

1 全体スケジュール

	日時・場所	テ ー マ	参加者
(1)	平成 28 年 10 月 15 日（土） 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター	『乳幼児検診、予防接種に役立つ日本語』	8 人
(2)	平成 28 年 11 月 19 日（土） 13 時 00 分～15 時 00 分 まなび創造館 調理室	『日本語で買い物をして、料理を作ろう！』	11 人
(3)	平成 28 年 12 月 17 日（土） 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター	『日本の小学校これだけ知っておけば大丈夫』	16 人
(4)	平成 29 年 1 月 21 日（土） 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター	『小学校高学年から中学生の子どもへの接し方』	19 人
(5)	平成 29 年 2 月 18 日（土） 13 時 00 分～15 時 00 分 まなび創造館 絵本図書館	『日本語と母語、絵本でともに育てよう』 協力：小牧市立図書館 絵本図書館 職員の方	19 人
(6)	平成 29 年 3 月 11 日（土） 13 時 00 分～15 時 00 分 小牧市南部コミュニティセンター	『広報こまきを読んで、地域の行事に参加しよう』 協力：小牧市シティプロモーション課 職員の方	14 人

2 参加者募集方法・広報

小牧市立保育園・幼稚園、児童館、小牧市立小・中学校、ボランティア日本語教室にチラシ 600 枚を配布した。

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

ア 外国人の子どもの乳幼児期における言語習得に必要な事項を周知させるとともに、「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」の各項目について、それぞれ具体的にどうやって伝えたら効果的だったか

- ・「大好きだよ」など我が子が大事だという思いを言葉でいちばん感情豊かに伝えることができるのは、母語である。また、おむつを替える、お乳を与えるなどの基本的ケアの際、「気持ちよくなったね」、「かわいいね」、「大きくなってね」などと話しかけやすいのは、母語である。
- ・母語でない言葉で声掛けや会話をしようとして、「このことは日本語でなんて言う

のだったのだろう」と考えているうちにタイミングを逃してしまうことが結構あったり、会話が途切れ途切れになりがちである。従って、母語で話しかけることが大事であり、また、自問自答し思考するための言語は、母語が望ましい。

- ・国際結婚の際、日本人夫が妻の母語使用を好まないこともある。夫婦で話し合っておくことが大事である。
- ・思春期に子どもが自身のアイデンティティに悩むことがある。自分の親の言葉、親の文化は一つではないことに困惑する子どもがかなりいる。乳幼児期から二言語で育てていくことは価値のあることである。
- ・子どもが母語を理解できないと中学校の後半になったとき、進路のことについて親子で会話したいが、それぞれが得意とする言語が異なり、複雑で微妙なニュアンスの話がしにくいということが起こる。子育ての期間は長く、子どもと親が話し合うことができるように、子どもの誕生時から用意していく必要がある。

イ 子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけを提供する上で難しかったことや工夫したことなど

- ・予定や持ち物に関する日本語が必要となる。子どもの病気や災害時の対応も日本語が必要になる。
- ・第2次反抗期になると、母語を理解する子どもであっても、親に聞かれない話や話したくない話は日本語で話すようになり、親は日本語ができないことを悩むことがある。
- ・親が日本語を学ぶ姿を見せることは子どもの学習意欲全般を高めることになると考える。
- ・いろいろな事情を抱えた人が参加するので、進行が難しい。このときはカウンセラーに助けられた。

ウ 参加者からの主な相談・質問内容

- ・日本人夫が妻の母語使用を好まない。
- ・母語と日本語で話していたが、子どもの言葉がなかなか出なかったため、日本語だけで教えている。それでよいのだろうか。
- ・夫が妻の母語を理解し、母語で育てていたが、離婚により混乱が生じている。父親喪失の悲しみと園や学校でのやり取りができない母親に対し、子どもが母につらく当たるので困っている。
⇒ 「第1回目の参加者の悩み、母語は大切です」と話し始めた途端にその人は号泣。支援者のカウンセラーに対応してもらった。
- ・子どもの成績が心配。自分がわかることは教えられるが、記述式の問題、算数の文章題、作文の課題に困っている。
- ・親の日本語を学ぶ場、子どもの学習支援の場を探している。
⇒ 今回の主な会場である小牧市南部コミュニティセンターで週1回、日本語教室を開くことになった。

(2) 関係機関との連携

- ・小牧市子ども政策課、保健センター、シティプロモーション課や、小牧市立の保育園・幼稚園、小中学校、図書館、また、小牧市国際交流協会から情報宣伝の協力を得た。
- ・小牧市立図書館分館の絵本図書館に図書館利用の仕方、本の紹介、読み聞かせをしていただいた。
- ・市シティプロモーション課に外国語版広報について説明をしてもらい、利用者である外国人保護者の意見を吸い上げてもらった。
- ・小牧市南部コミュニティセンターの方に、その広報誌の説明と参加の呼びかけをしてもらった。

B 特定非営利活動法人希望の光（豊田市）

1 全体スケジュール

	日時・場所	テ ー マ	参加者
(1)	平成 28 年 9 月 24 日 10 時 00 分～11 時 00 分 浄水交流館	イントロダクション 『ダブルリミテッドとバイリンガル』	14 人
(2)	平成 28 年 10 月 1 日（土） 10 時 00 分～11 時 00 分 浄水交流館		12 人
(3)	平成 28 年 10 月 8 日（土） 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『言語聴覚学とは？ 子どもの様々なことばや学びの障害について』 『言語障害をはじめとする様々な障害の誤解について』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏	14 人
(4)	平成 28 年 10 月 15 日（土） 9 時 30 分～18 時 30 分 南知多グリーンバレイ	『自分のルーツを五感で感じよう！ —シュラスコで親子の文化継承—』	35 人
(5)	平成 28 年 10 月 22 日（土） 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『ブラジル人言語聴覚士から学ぶ、日本での子育てについて』 『障害児のバイリンガルについて』 講師：（特活）きらり 言語聴覚士 イケダパメラ 氏	18 人
(6)	平成 28 年 11 月 19 日（土） 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『遊びの中の学び』 『やってみよう！ 夢中になる学び方』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏	8 人
(7)	平成 28 年 11 月 26 日（土） 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『言語聴覚士から学ぶ、ことばの発達と親子』 『やってみよう！ こども目線の遊び』 講師：豊田市こども発達センター 東俣じゅんこ 氏	10 人
(8)	平成 28 年 12 月 3 日（土） 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『母語と継承語について』 『継承語と文化について』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏	10 人
(9)	平成 28 年 12 月 17 日（土） 10 時 00 分～13 時 00 分 保見交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『バイリンガルについて』 『親子で共有するルーツのクリスマス』 講師：名古屋大学 国際言語センター 特任助教 鈴木崇夫 氏	178 人

(10)	平成 29 年 1 月 21 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『名古屋鑑別所地域支援課から学ぶ親子関係について —やっではいけないことリスト—』 『親子関係の悩みを相談しよう』 講師：名古屋鑑別所 地域支援員 岡部はるか 氏	10 人
(11)	平成 29 年 1 月 28 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『いじめについて —家族にできること—』 『アイデンティティの揺れと心の健康』 講師：ブラジル人学校 教育コーディネーター ヒガシリカ 氏	9 人
(12)	平成 29 年 2 月 4 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『バイリンガルの絵本との関わり方について』 『母語と日本語で絵本を読んでみよう！』 講師：おむすびころりん愛知 代表 小野則子 氏	10 人
(13)	平成 29 年 2 月 25 日 (土) 10 時 00 分～13 時 00 分 浄水交流館	<ul style="list-style-type: none"> 『子どもとの関わりについて』 『カイピーラのルーツを親子で共有しよう！』 講師：愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 氏	25 人

2 参加者募集方法・広報

今回の事業では、ターゲット層（ブラジル人）のほとんどが生活情報源としている Facabook を主な情報発信源とした。参加者の多くは、Facabook の告知用のティザー動画を見て、興味を持って頂いたようである。SNS を活用することで、告知画像・動画のリーチ数や共有（シェア）数を把握できるだけでなく、多様な意見をリアルタイムで頂くことができた。そして、外国人保護者のニーズをよりの確に把握し、事業内容を適宜修正しながら進めることができた。効率的かつタイムリーに情報を届けられただけでなく、チラシと比べて印刷・配布の手間や費用がかからず、コストパフォーマンスは非常に高かった。さらに、この情報を見た Facebook ユーザー同士の口コミが迅速広まっていた。うまく拡散されなかったときの対処法としては、期待しているリーチ数を設定し、数百円程度の費用で、地域・年齢などの項目を指定して該当するユーザーのページに情報を掲載できるサービスを活用した。それによって、周知が充分でなかった情報も数日で 600 人以上に届けることができた。

デザインは、ブラジル人コミュニティの中で活動する本団体の特有性を活かして、外国人の目にとまりやすく、興味を引き出せるよう情報のまとめ方を工夫した。特に、告知やリーフレットのデザインは、ブラジル人ママをデザイナーに起用したことで、日本人とは異なる観点から外国人の目を引き付けるイメージを提示することができた。

さらに、仕事と家事で忙しい人にも手軽に情報を届けられるよう、参加者募集の際には前回分の要約と次回の告知をアナウンス入り動画で配信した。男性ブラジル人 YouTuber を起用したことで、母親に限らず、広く関心を引き付けることができた。非常にわかりやすく手軽に本事業の重要性を訴える動画を投稿し続けたことによって、途中から本事業を知った人でも、情報をさかのぼってどんどん興味を持ってもらえ、知識欲を刺激することができた。

このように SNS を活用したことで、実際に活動に参加出来なかった人にも興味があれば情報が行き届くよう、活動の様子は全て映像として記録した。想定通り、外国人か

らのリアクションは大きく、彼ら自身にも情報を周知してもらうことができ、非常に有効だった。本当にこの情報を必要としている人にきちんと届いているかは分からないが、リーチ数は想定以上の規模にまで届いている。

動画集：

https://www.facebook.com/pg/Projetobilingueaichi/videos/?ref=page_internal

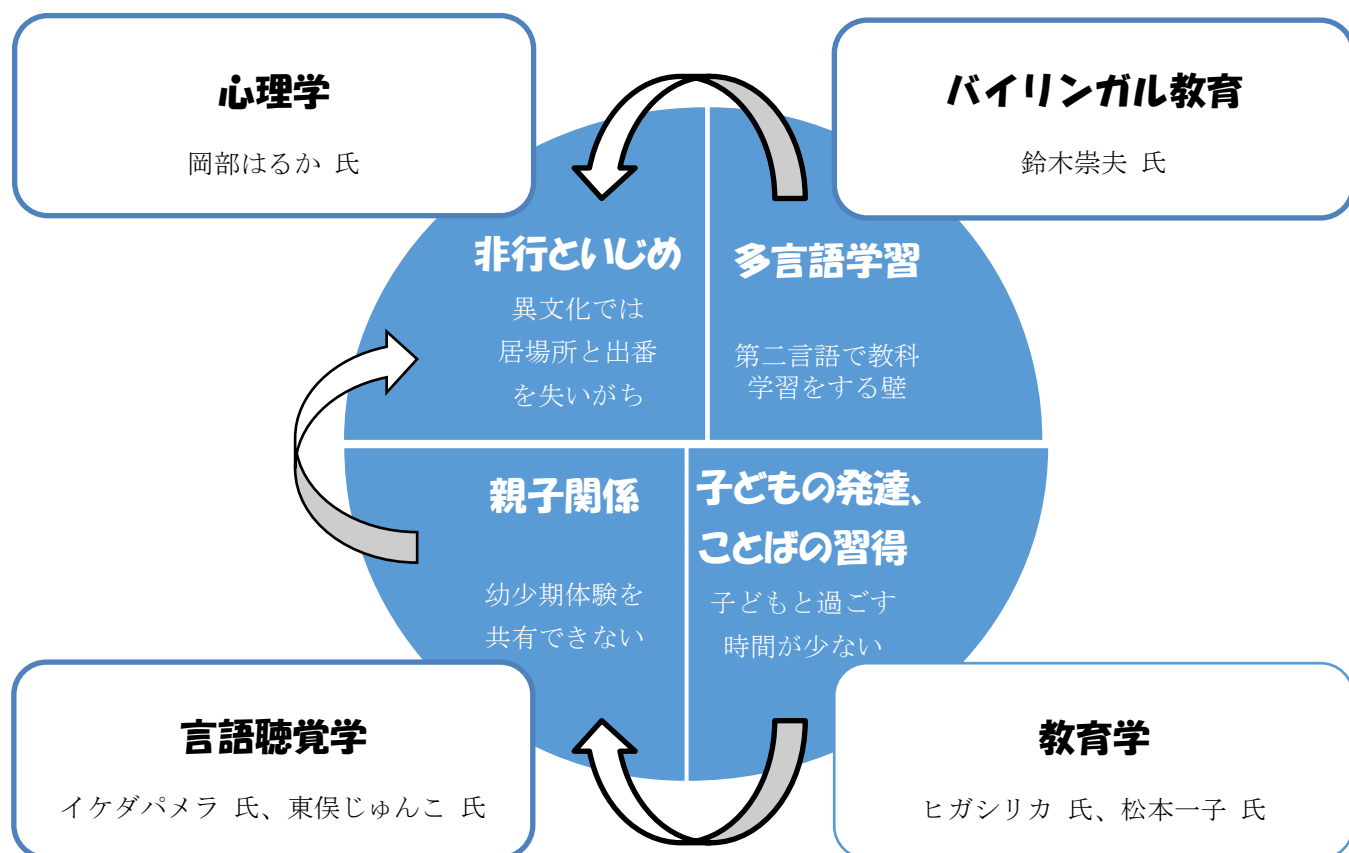
告知動画再生回数：平均2,101回（最高7,787回）

開催告知投稿のリーチ数：平均 914人（最高22,923人）、累計102,400人
投稿の共有（シェア）数：3,500回

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

- ① 「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」の周知にあたって、言語習得等の専門家にアドバイスを求め、参加者と共有した。分野は、普段の子育て生活では日本語が話せなかったり、存在を知らないなどの理由によって、外国人保護者がアクセスしにくく課題とニーズが多いものを選定した。



特に、母語と現地語（日本語）を習得する上での課題とその解決方法について参加者と議論した。参加者の疑問の多くは「母語と日本語両方の習得は可能か」、「母語と日本語どちらを先に習得させるべきか」というものであった。それに対し、言語聴覚学やバイリンガルの専門家に的確なアドバイスを明示してもらい、日本社会で生きて

いく中で欠かせない、二つの言語の役割についての考え方を共有した。外国人保護者にも浸透するよう、抽象的なアドバイスではなく、「母語は子どものアイデンティティの拠り所になり、親子の絆を深めるツールである」、「物事を考える能力を発達させる語彙数を持たせられる言葉」で話さなければ子どもの思考は制限される」など具体的に「何故」という点と、バイリンガル教育によって期待される効果や伸ばされる能力などを明示するよう心がけた。

- ② 「子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけ」については、子どもの成長をサポートする者（鑑別所職員）からその能力の必要性を強調してもらい、また、言語聴覚学やバイリンガルの観点も併せて「子どもの健全な社会参加は保護者の日本語学習の姿勢に影響される」ということを啓発した。

「危機感（鑑別所の事例や言語聴覚学で知られる障害）」と「希望（バイリンガルのニーズや将来活躍する可能性、ポテンシャルの高さ）」を明示するよう心がけた。

【子育て外国人の悩みやニーズ】

相談内容で特に多かったのは、「二つの言語を習得できるのか」、「どちらの言語から学習すべきか」、「母語はどうして大切なのか」といった母語と日本語の間で板挟みになっていることに関する悩みであった。しかし、これらは親自身の方向性にも影響されるものである。「日本に住むのか、帰国するのか」、「帰国は本当に可能か、永住は本当に可能か」など、どんな立場の保護者であっても未来を予知することはできない。「日本に住み続けられるかどうか誰にも分からないのであれば、まずは子どもの選択肢・可能性を広げるために何をすべきか」と考えてもらった。特に、「今、子どもに最大限してあげられるとは何か」を考えてもらった。子どもとたくさん話して、経験を共有して、かけがえのない今を刻むということにおいて、「保護者自身のキャパシティの中で最大限のコミュニケーションを取るための重要なツールである言葉を大切にしてほしい」ということを強調した。

【子ども目線で保護者への働きかけ】

子どもを大切に想い、立派に育ててほしいという願いは、どの保護者も変わらない。子どもの健全な成長を願う気持ちに働きかけ、それに重ねて、「乳幼児期における言語習得に大切なポイント」を伝えることが最も効果的であった。

今回の事業において、そのメッセージとポイントを最も参加者に届けられたのは、彼らの子どもたちの姿であった。日本で子育てする外国人として、「コミュニケーションを取ってください」と言葉で説明されるよりも、頑張って日本語を習得した子どもの姿、母語で心に響く歌を一生懸命届ける子どもの姿を目の当たりにすることで、彼らから自分が持つかけがえのない宝である子どもの成長における自身の役割を自発的に感じ取ることの方が何よりも効果的であった。

(2) 関係機関との連携

・豊田市こども発達センター

今回の事業では、「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」が肝要であったため、言語習得や言語発達の専門家にアクセスすることが不可欠であると考えた。日本で育つ外国人の子どもを取り巻く言語習得における問題は複雑に絡み合っている。まず「乳幼児期における言語習得」について理解することの必要性をわか

りと外国人保護者に感じてもらうことに注力した。母語や日本語など、言語発達に様々な側面があるからこそ、保護者やその子どもに関わる行政職員等も彼らの言語習得の発達を丁寧に見守り、サポートしていけるように、講演やワークショップ等を調整した。

・名古屋鑑別所

本事業の最も特徴的な連携機関の一つである。子育て事業において青少年の非行等に関わる鑑別所はあまり関連を持たないように思われるかもしれないが、ブラジル人コミュニティの中で活動する本団体だからこそ、当該機関が外国人の子育てに大きく関わっていることを実感している。学校に馴染めないまま幼少期を過ごした外国人の子どもは、一歩道を誤れば非行へと走ってしまう。日本人の子どもと比べ、外国人の子どもは家庭・学校・社会の中で居場所を見つけることが難しい。親の都合で来日して、言語も文化も知らない国で生きていかなければならない子どもたちは様々なフラストレーションを抱え込んでいる。外国人保護者にとって、子どものそういったストレスに気付かないまま理想的な親子関係を築くことは容易でない。このような課題について、親子関係の専門家でもあり多くの青少年をサポートしてきた鑑別所であれば、適切なアドバイスを頂けるのではと考え、調整した。

C 特定非営利活動法人みらい（知立市）

1 全体スケジュール

○ 外国人ママパパのための子育て日本語講座 & 役立つ育児情報

	日時・場所	テ ィ マ	参加者
(1)	平成 28 年 10 月 14 日(金) 17 時 00 分～19 時 00 分 UR 知立団地集会所	・子どもの発達にあった遊び & 育児相談 ・日本語講座『保育園・幼稚園』 講師：知立市立高根保育園 園長 岡部直子 氏	16 人
(2)	平成 28 年 10 月 22 日(土) 10 時 15 分～12 時 00 分 昭和児童センター	・昭和児童センター「アイアイ教室」体験 ・日本語講座『子どもと遊べる日本語』 協力：昭和児童センター	13 人
(3)	平成 28 年 11 月 26 日(土) 13 時 30 分～15 時 00 分 UR 知立団地集会所	・ベビーマッサージ & リズムあそび Part1 ・日本語講座『子どもの発達・育児グッズ』 講師：日本語がわかる子育て中の外国人保護者	6 人
(4)	平成 28 年 12 月 17 日(土) 10 時 30 分～13 時 00 分 UR 知立団地集会所	・ベビーマッサージ & リズムあそび Part2 ・日本語講座『病気のときに使う日本語』 協力：愛知医科大学 看護学部の学生	4 人
(5)	平成 29 年 1 月 20 日(金) 10 時 30 分～13 時 00 分 UR 知立団地集会所	・イベント 『妊婦さんとママのためのリラックスヨガ & 子どものことばを考える』 講師：前 名古屋大学 教授 村上京子 氏、 愛知淑徳大学 准教授 小島祥美 氏	19 人
(6)	平成 29 年 2 月 25 日(土) 10 時 30 分～13 時 00 分 UR 知立団地集会所	・ベビーマッサージ & リズムあそび Part3 ・特別講座『子どものことばを考える』	10 人

○ 有識者アドバイス公開ヒアリング

日時・場所：平成 28 年 12 月 12 日（月） 知立市保健センター

〈午前の部〉10 時 00 分～11 時 00 分 / 〈午後の部〉13 時 30 分～14 時 30 分

テ ィ マ：『外国にルーツをもつ子どものことばを考える』

アドバイザー：愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 氏

参加者数：41 人（〈午前の部〉17 人 / 〈午後の部〉24 人）

2 参加者募集方法・広報

① チラシの配布

知立市子ども課・学校教育課・健康増進課・市民課・協働推進課の協力を得て、市内の保育園・学校・保健センター・市役所の外国人相談窓口・知立市多文化共生センター「もやいこハウス」にチラシを設置・配布した。保育園や保健センターにおいては、外国人保護者へ直接声掛けもして下さった。

② Facebook の活用 ③ 知立市広報への掲載

- ④ 本団体が従来実施している多文化親子サポート事業「みらいJ r.」(以下「みらいJ r.」という。)の活動内での個別の声掛け
- ⑤ 「みらいJ r.」スタッフ・通訳による個別の声掛け

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

ア 外国人の子ども乳幼児期における言語習得に必要な事項の周知について

参加する外国人保護者の多くが、0～2歳の子をもつ親で、まさにこれから子どもがことばを覚えていく時期にあり、「子どものことば」についての関心の高さを感じた。

日本語が分からない外国人保護者に対して情報を周知していく上で、通訳者の存在は大きい。今回の事業では、参加者が正確に内容を理解し発言ができるよう、ポルトガル語とタガログ語の通訳に入ってもらった。参加者にとって、通訳者は「ただ言葉を訳してくれるスタッフ」ではなく、「安心して活動に参加し、相談ができる心の支え」ともいえる存在である。実際に通訳者に誘われて参加した保護者も多い。日本語がある程度分かる外国人保護者であっても、自分の母語で話ができる通訳者の存在は大きい。通訳者がいなかったら、参加人数も参加者からの発言の量や内容も大きく違っただろう。通訳者と参加者の間に信頼関係が築かれており、事業を実施する上で通訳者が果たした役割は大きかった。

通訳者のいない言語の外国人保護者の参加は少なかったため、通訳のない言語の外国人保護者が参加しやすい場をつくり、どう情報を伝えていくかが課題となった。

イ 子どもの成長に従って保護者に必要となる日本語能力を向上させるきっかけの提供について

参加者は乳幼児を持つ外国人保護者が中心であるため、まだ小さい子どもを育てる保護者にとって関心が高いテーマに絞り、日本語だけでなく、テーマに合わせた育児情報を提供する工夫をした。そして、外国人保護者が参加しやすいよう、事前申込みをなくし、当日気軽に参加できるようにした。ベビーマッサージなど、今までの活動の中で人気が高かったものも取り入れた。子どものお腹が空いてくることも予想し、また、大人もぎっくばらんに話ができるよう、軽食を用意した。参加者の日本語能力は様々で、育児情報も提供することから、日本語がほとんど分からない保護者には通訳者が寄り添って進行した。

参加者の満足度は高く、日本語への関心の高さや意欲を感じた。講座中は「見守り託児」に入ってもらい、子どもは親と同じ空間で、親にくっついたりおもちゃで遊んだり、思い思いに過ごしていた。ただ、親は常に自分の子どもに意識がいくため、終始講座に集中することは難しく、講座の内容を精査し、できるだけ短時間で簡潔に伝えなくてはいけない難しさを感じた。

育児に関する日本語について「知らなかった言葉や表現があって勉強になった」という声が聞かれるなど、今回の事業をきっかけに、日本語への学習意欲が出た外国人保護者がおり、この事業の成果を感じる。一度に大勢の外国人保護者を集めることは困難であるが、引き続き、より多くの外国人保護者に日本語能力を向上させるきっかけを作る必要性を感じる。

外国人保護者の多くは、子どもがある程度大きくなると、保育園に子どもを預けて働き始める。今後の課題は、産休や育児休暇等を利用して日本語を学習したいと考えている外国人保護者が、子連れで学習できる環境や教室を整備していくことである。そのためには、予算と人材の確保が必要である。また、このような場の役割は、単に日本語を学習するだけではない。「みらいJr.」の参加者の多くは、ママ友があまりおらず独りで子育てをしていたという実態がある。このような集まりが、ママ友を作る場、子どもを連れて遊びに行ける場、気軽に相談できる場、交流ができる場、子育てをする親の憩いの場となっている。こうした観点からも、継続していく必要性を感じる。

(2) 関係機関との連携

関係機関とは、本団体の従来 of 活動を通して既に関係づくりができていた。そのため、今回の事業受託後も引き続き、活動への理解と協力を得ることができた。

関係機関の主な連携事項は以下の通りである。

【連携機関】

- ・ 知立市 子ども課、学校教育課、健康増進課（保健センター）、協働推進課
- ・ 知立団地自治会 ・ 愛知医科大学看護学部
- ・ (特活) 多文化共生リソースセンター東海

- ・ 前述のとおり、本事業の周知活動においては、チラシの設置・配布に各関係機関の協力を得ることができた。
- ・ 「外国人ママパパのための役立つ育児情報」においては、知立市子ども課の協力を得て、市内でも外国人園児が多く通う保育園の園長先生に講師として来ていただくことができた。また、児童センターを会場とし、施設体験を実現させることもできた。
- ・ 第4回『病気のときに使う日本語』では、愛知医科大学看護学部の協力を得て、ロールプレイの医師訳として学生に参加してもらうことができた。
- ・ イベントの打合せにおいては、知立市保健センターの保健師が積極的に参加をしてくださった。市の保健師が県の衣浦東部保健所にも声掛けをしてくださり、衣浦東部保健所からも参加があった。また、打合せ事項を早速指導に取り入れてくださり、具体的な効果も上がった。
- ・ 今年度は「知立市多文化共推進プラン」の見直しの年であり、本団体が委員となっている「多文化共生推進協議会」において、多文化共生に関する意見を市協働推進課に伝えることができた。

D 特定非営利活動法人フロンティアとよはし（豊橋市）

1 全体スケジュール

	日 時	テ ー マ	参加者
(1)	平成 28 年 11 月 20 日（日） 13 時 30 分～15 時 30 分 市営西部住宅第 2 集会所	お弁当講座 『外国人ママ・パパのための料理教室』 講師：「こどもの料理」主催者 協力：（特活）Kids&Mama NPOねこのて	15 人
(2)	平成 28 年 12 月 18 日（日） 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所	『親子で遊ぼう・日本語で歌おう①』 協力：（特活）NPOまんま	8 人
(3)	平成 29 年 1 月 15 日（日） 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所	『親子で遊ぼう・日本語で歌おう②』 協力：（特活）NPOまんま	5 人
(4)	平成 29 年 2 月 19 日（日） 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所	『親子で遊ぼう・日本語で歌おう③』 協力：（特活）NPOまんま	10 人
(5)	平成 29 年 2 月 22 日（水） 20 時 00 分～21 時 00 分 県営岩田住宅集会所	『外国人ママ・パパのための子育ての日本語教室』	5 人
	平成 29 年 3 月 4 日（土） 20 時 00 分～21 時 00 分 県営岩田住宅集会所		
	平成 29 年 3 月 5 日（日） 10 時 00 分～11 時 00 分 市営西部住宅第 2 集会所		
(6)	平成 29 年 3 月 7 日（火） 東陽地区市民館会議室	「リーフレット」個別説明会	19 人
	平成 29 年 3 月 9 日（木） 市営西部住宅第 2 集会所		
	平成 29 年 3 月 10 日～11 日 （金～土） 県営岩田住宅		

2 参加者募集方法・広報

- ・ 県営岩田住宅及び市営西部住宅の各自治会に依頼し、チラシを対象家庭に配布して頂いた。また、各住宅内の掲示板にチラシを掲示して頂いた。
- ・ 本団体が県営岩田住宅及び市営西部住宅で別途実施しているプレスクールの授業において保護者に告知し、チラシを配布を行った。

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

- ・リーフレットについては、

【家庭の中で】

- ①子どもが親の話せることばにできるだけ多く触れる時間を作りましょう
- ②自分たちの子育てに自信を持ちましょう

【地域に目を向けて】

- ①近くにある施設に出かけてみましょう
- ②子育てサークルなどのイベントに参加してみましょう

と、項目を4つに絞って記載をしたことで、読む側に「わかりやすい」という印象を与える事ができた。そのため、読み終えた後の質疑応答を活発に行う事ができたと思う。また、通訳者や本団体スタッフから、体験談や経験談を交えながら内容を伝えたことが外国人保護者の立場に寄り添ったかたちとなり、参加者が積極的に意見を言える雰囲気作りができたのだと思う。

- ・今回、自治会の関係者も事業に積極的に関わってくださった。参加者に施設の紹介や自治会活動を説明して理解を促し、「今後子育てで困ったときに自治会役員が相談を受けてくれる」ということも関係者から伝えていただいた。これによって、参加者の自治会に対するイメージが変わり、「地域に子どもは育てられる」と書いた内容も理解してもらえたのではないかと思う。
- ・プレスクールにも子どもを通わせている今回参加した中国人保護者から、「小学校入学前に娘の名前を日本人のような名前に変えたいが、どう思うか」という相談を受けた。日本名の案も持参しており、スタッフとともに意見交換の場を設けた。「今の名前が少し読みづらい」、「それが元でいじめられると困る」、「変えるならタイミングは今ではないか」など、母親と様々な話をし、みんなで意見を出し合った。結論を出すことはできなかったが、話し終えた母親の表情が非常に明るかったため、また何かあったらいつでも連絡するよう伝え、見送った。
- ・「子育て」をキーワードにしてつながり、相手と信頼関係を築くことができれば、悩み相談をしたいと思っている外国人の母親が多いのではないかと強く感じた。「母親自身、自分の親は遠くに住んでいて頼れない」、「行政窓口に行く勇気がない」、「見ず知らずの人に自分の悩みを相談するのは恥ずかしいし、気が引ける」、「日本人のやっている子育てサークルにも行きづらい」など、我々が想像するより孤独な状況で外国人は日本で子育てをしているのだろうと思う。今回協力頂いた子育て支援のNPOや自治会と、我々のような外国人支援団体とが本事業を通して繋がれたことは、外国人保護者にとって「頼れるところ、頼れる人」ができ、彼らの安心につながったと感じている。今後も何らかのかたちでこの事業を継続する方法を考えていきたいと思う。
- ・悩みを聞く・相談に乗るといえるときに、相手が同じ国の出身者であり、同じ境遇を経験し、言葉がわかる人間でなければ信頼関係を築くのは容易でなく、安心して相談できないだろう。今回出会った外国人保護者が日本語を勉強し、自分の経験を活かし、我々とともに活動できるようになってほしいと願っている。しかし、「日本

語の勉強」感を前面に出すと外国人はなかなか足が向かないという現状があるため、日本語教室をより参加しやすい日時と楽しく学べる内容となるように考え、実施したいと思う。

(2) 関係機関との連携

今回最も残念だったことは、実施会場周辺の保育所や幼稚園とうまく連携がとれなかったことである。保育士の講師派遣依頼も試みたが、本団体の実施日程は休日か平日夜間で、業務時間等の関係で講座で話をしに来て頂くことが難しいところが多かった。また、西部住宅周辺3園には同住宅の子どもたちは通園しておらず、外国人園児もほとんどいないという現状であった。

今後は本事業の継続を視野に入れ、プレスクールの保護者を通した保育園・幼稚園との関係作りや市の担当課との関係を構築していきたいと考えている。

E 特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）

1 全体スケジュール

	日時・場所	テ ー マ	参加者
(1)	平成 28 年 9 月 17 日（土） 10 時 30 分～12 時 00 分 とよた市民活動センター	ワークショップ 『子育ての悩み、困りごと』	21 人
(2)	平成 28 年 10 月 29 日（土） 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター	『1 回目のワークショップの意見に答えます』	27 人
(3)	平成 28 年 11 月 12 日（土） 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター	『母語の重要性について』 講師：とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター 鈴木崇夫 氏	8 人
(4)	平成 28 年 12 月 10 日（土） 10 時 30 分～12 時 00 分 とよた市民活動センター	子育て支援グループとの交流 『子育て交流会』 協力：キッズプランナー	19 人
(5)	平成 29 年 2 月 4 日（土） 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター	ワークショップ 『子育て情報リーフレットを作ろう①』	16 人
(6)	平成 29 年 2 月 11 日（土） 13 時 30 分～15 時 30 分 とよた市民活動センター	ワークショップ 『子育て情報リーフレットを作ろう②』	12 人
(7)	平成 29 年 2 月 13 日（月） 15 時 30 分～17 時 00 分 西保見小学校	『学校について知ろう』	8 人
(8)	平成 29 年 3 月 4 日（土） 9 時 30 分～14 時 30 分 浄水交流館	調理実習 『新 1 年生お弁当と日本のおかず』	27 人

2 参加者募集方法・広報

- ・チラシの配布（日本語教室、学校、とよた市民活動センター）
- ・SNS（Facebook など）
- ・口コミ

3 事業を実施する上でのポイントや課題

(1) 外国人保護者等に対する啓発

- ・事業の最初にワークショップを行い、子育ての課題を共有した上で参加者が望んでいる情報を提供した。
- ・子育て講座を通して「保護者が日本語を学ぶことの重要性」を伝えることは難しいと感じたが、各回のテーマに沿って「学校の先生への頼み方」、「算数の文章問題で

よく出てくる言葉」、「子どもへの声掛けの言葉」などの日本語を学ぶ機会を作った。参加者の中から「家で子どもに宿題を教えるために『算数の文章問題で使う言葉の日本語教室』をやってほしい」という声があった。

- ・自分自身が日本の学校で苦労したという保護者もいる世代であり、母語を保持することが難しくなっている現状において、母語保持について啓発していくことは大切である。しかし、日本人男性と国際結婚したケースでは、遠慮もあり家庭で母語を使うことは難しいようだった。他にも、「学校の先生に日本語を使うように言われた」、「母親が外国語を使うことを子どもが嫌がる」といった話もあった。周囲の理解を促すことを併せて行う必要がある。
- ・家庭学習については、「日本語が分からないから何もできない」ということはなく、「家庭でもできることがある」ということを参加者と共に考えてきた。その結果、小学2年生の児童Aの母親は、学校の生活科の授業「おおきくなったわたしたち」(今までの自分の成長をファイルにまとめる学習)で子どもから手紙を書くことを依頼されると、立派なカードにポルトガル語で手紙を書いた。児童Aはそのポルトガル語を読めなかったが、たまたま研究授業でその場に参加していたバイリンガルの先生に読んでもらえた。児童Aは「自分は2回泣いた」と言っていた。

これとは対照的に、児童Bの保護者は「日本語が分からない」という理由で結局子どもへの手紙を書かなかった。本事業を通して一番印象的な出来事だった。

- ・事業実施にあたって、参加者への呼び掛けや講座の進め方など「日本人の意識」と「外国人の立場や考え方」をよく理解したバイリンガルスタッフが活躍した。参加者はワークショップ等の話し合いで悩みが解決できたこともあったようで、事業の継続を望む声があった。なお、バイリンガルスタッフはFacebookなどSNSでの告知を担当し、広く反応があったが、参加者の増加にまでは至らなかった。

(2) 関係機関との連携

- ・子育て支援グループとの交流会は大成功だった。以下の点が主な成功の要因と思われる。
 - 中間支援組織である「とよた市民活動センター」に適切な団体を紹介してもらったこと。
 - キッズプランナーと十分な打合せをして、事業目的、参加者の背景や言語の課題を理解していただいたこと。
 - キッズプランナーの専門性と豊富な知識・経験があったこと。
- ・母語の重要性を啓発するため、プレスクール事業と関連づけた事業実施を検討したが、スケジュール調整が難しく実現できなかった。母語については、一人ひとり背景や状況が異なり、課題も一律ではない。少人数で座談会的に専門家に相談ができる機会が必要だと思われる。